

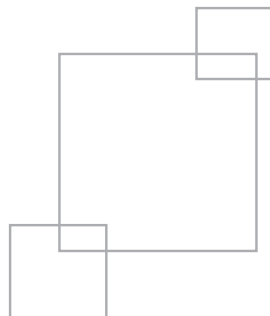
研修の企画・設計の方法 ーインストラクショナルデザイン(1)ー



堤 宇一

NPO法人学習分析学会 副理事長

つつみ・ういち●NPO法人学習分析学会 (<http://jasla.jp/>) 副理事長。熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学博士課程前期修了。専門テーマは「教育効果測定」「インストラクショナルデザイン」。現在、(株)日立総合経営研修所に勤務しながら産業人教育の品質向上を目指し、講演、執筆、コンサルタントとして活動中。著書に「教育効果測定の実践」(編著)、「越境する対話と学び」(共著)など。



今回は、企業での人材育成の位置付けとその目的を概観し、人材に期待される能力の特徴や性質の違いを検討した。そして第2回では、HPI(Human Performance Improvement)の考え方を紹介しつつ、研修の效用と限界について議論した。

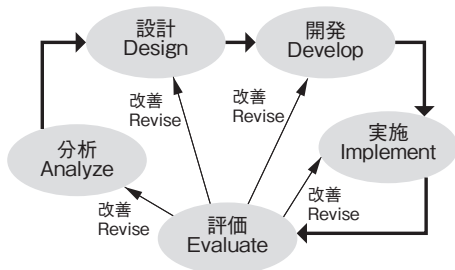
さて、残り2回では、有効な研修を開発するための理論「インストラクショナルデザイン」(Instructional Design)以下、IDと表現する)を紹介しよう。今回はIDの定義やコアとなる考え方を論じ、最終回では、研修設計の中で最も重要となる「学習目標」について紹介しよう。

インストラクショナルデザインとは

研修を含むインストラクショナルデザインをシンプルに表現すると、人々の学習を支援することといえるだろう。IDとは、学習を支援する行為や活動を設計、組み立てることである。教育工学者の鈴木克明熊本大学大学院教授は「教育活動の効果・効率・魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またそれらを用いて学習支援環境を実現するプロセス」であるとIDを定義している(2005)。研究成果や実践からの知見を用い、教育活動をデザインすることで「偶発的な学習」から「意図的な学習」を実現しようとするのがIDなのである。

企業研修での開始挨拶の常套句に「何か一つでも、参加者の皆様が持ち帰ってくださいれば主催者として幸せです」という言葉は、IDを用いずに研修が提供されているという証拠なのである。もちろん日本の心謙譲の美德が込められていることは十分承知して

■ ADDIE モデル*



各工程を簡単に説明しよう。分析(Analysis)工程は、どんな問題が生じているのかを把握し、その問題は教育や研修という施策で解決できるのか。学習者は教育施策に参加することで、どんな能力が開発されるか、どんな知識やスキ

ルを身につけるかを定義する工程である。五つの工程の中でも取り分けてこの工程が重要といえる。分析工程での誤りを、残りの工程で挽回するのは大変難しい。

次の設計(Design)工程は、分析工程で描いた青写真を具体的計画に落とし込む工程である。学習目標を明確にし、学習項目を洗い出し、どのような学習活動で展開するのか、その詳細をプランニングし設計図を描いていく。そして、このプランニングと設計図に沿い、時間割や教材、シート等を製作する工程が開発(Development)工程である。

そして次の実施(Implementation)工程は、実際に教育を実行する工程になる。参加者全員が分析工程で設定した学習目標に到達するように支援し、研修を建設的な学びの場として維持・強化しなければならない。

最後の評価(Evaluation)工程は、参加者の学習達成度、教材の評価、実施工程での不具合の確認などを行い、より有効性の高い研修へと改善を図る工程である。これらの工程を一つひとつ展開することで効果的で効率的な研修に仕上げていくのである。

以上のように、ADDIEを厳格に実行することによって研修の有効性を高め、意図的な学習を実現しようとするアプローチがIDなのである。研修が人的投資としての機能を果たすには、研修講師の話し方や知名度に依存するアプローチでは困難であるといわざるを得ない。

さて、次回最終回は研修設計で最も重要な役割を持つ「学習目標」について論じ、本連載を締めくくろうと思う。

いるが、IDを用いて提供される研修では「明日17時の研修終了時には、皆さん全員が○、△、×の三つのことができるようになっていきます。それでは充実した時間をお過ごしください」という挨拶になるだろう。

インストラクショナルデザインの「ADDIEモデル」

では具体的にどのような工程を踏み「教育活動の効果・効率・魅力を高めよう」としているのかを見ていこう。

コアとなる枠組み「ADDIEモデル」を(紹介しよう。ADDIEとは「Analysis:分析」「Design:設計」「Development:開発」「Implementation:実施」「Evaluation:評価」の五つの要素から構成されるプロセスを意味し、各要素の頭文字をとり「アディエ」と呼ぶ。この五つの工程をキチンと実行することで効果的な教育や研修が提供できるようになる。

「Development:開発」「Implementation:実施」「Evaluation:評価」の五つの要素から構成されるプロセスを意味し、各要素の頭文字をとり「アディエ」と呼ぶ。この五つの工程をキチンと実行することで効果的な教育や研修が提供できるようになる。